
りすの りっくんと
みらいのどんぐり



あきの もりに、どんぐりが たくさん おちました。
りすの りっくんは おおよろこび。



「やったー！　ぜんぶ　たべちゃおう！」



ママりすが　いいました。
「たべるぶんは、かごに　とっておこうね。
いくつかは、つちに　うえてみよう」



「うえると、どうなるの？」
「めが　でて、きに　そだつことが　あるんだ。
　おおきな　きには、あたらしい　どんぐりが　なるよ」



りっくんは　どんぐりを　３つ、つちに　うえました。
「おおきく　なあれ」



ふゆ。ママりすが かごを だしました。
「たべるぶんは、こっちに とってあるよ」
うえた どんぐりは、つちの なかで ふゆを こします。



はる。ちいさな　めが　でました。
でも、めが　でなかった　どんぐりも　あります。
「ぜんぶが　そだつとは　かぎらないんだね」



はる、なつ、あき、ふゆ。
なんねんも、なんねんも たちました。
りっくんも きも、すこしずつ おおきくなりました。



ある あき、そだった きに どんぐりが なりました。
「わあ！ ちいさな どんぐりから、
こんなに あたらしい どんぐりが！」



つぎの あきは、どんぐりが なりませんでした。
「みが なる としも、ならない としも あるんだね」



また どんぐりが なった あき。
りっくんは あたらしい どんぐりを ひろいました。
「そだつと、どんぐりが ふえることも あるんだね」



〇〇ちゃんの みらいの ために も、
パパとママが すこしずつ そだてているものが あるよ。
どう なっているか、ときどき いっしょに みようね。

よみおわったら、きいてみてね。

「りっくんの どんぐりは、どう なったかな？」

